

[成果情報名] ウンシュウミカン果実におけるかすり状被害とチャノキイロアザミウマの関係性

[要約] ウンシュウミカン果実の果頂部や側面に発生するそばかす様のかすり状被害は、チャノキイロアザミウマの放飼により再現できる。主に6月上中旬が本被害の発生時期である。被害の発生とチャノキイロアザミウマの発生数とは関係が見られる。

[キーワード] ウンシュウミカン、そばかす病類似症状、チャノキイロアザミウマ

[担当] 三重農研・紀南果樹研究室

[区分] 関東東海北陸農業・果樹

[分類] 研究

[背景・ねらい]

東紀州地域のウンシュウミカン果実で果頂部や側面にカンキツそばかす病やチャノキイロアザミウマの加害によるかすり状障害に似た被害（図1）が数年前から問題視されている。この被害は摘果の時期である6月下旬～7月頃から症状として現れる。被害多発地域では殺菌剤・殺虫剤による防除を頻繁に行っても著しい被害が見られている。そこで、原因のひとつと推察されるチャノキイロアザミウマとかすり状被害との関係を調査した。

[成果の内容・特徴]

1. 6月下旬～7月に現れるかすり状症状の主な被害時期は6月上中旬である（図2）。
2. 5月下旬から果実に袋掛けを行うと被害は発生しなかったが、袋の中にチャノキイロアザミウマを放飼することにより被害が再現できる（表1）。
3. チャノキイロアザミウマの果実寄生数が多いと被害も多くなる（表2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 東紀州地域の本症状被害発生ウンシュウミカン園での被害対策に活用できる。
2. チャノキイロアザミウマの発生が多いとかすり状被害の発生も多くなるため、イエロートラップや果実寄生数の調査によって被害の危険度を予測して防除対策をたてることが望ましい。
3. 本症状に関して、チャノキイロアザミウマ以外との関連は調査していない。

[具体的データ]



図1 果頂部かすり状被害

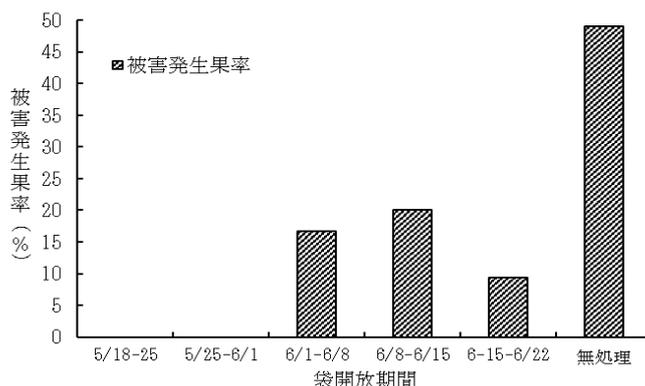


図2 果実露出時期別の被害発生果率

御浜町園地の「日南1号」で、5/18から7/14まで袋掛けを行い、上記の期間別に袋を開放し、果実を露出させた。7/11に被害を調査した(H28)。

表1 袋掛けおよびチャノキイロアザミウマ放飼によるかすり状被害の発生

処理区	処理		反復	調査果数	被害程度別果数				被害果率 (%)	被害度
	袋掛け	放飼			無	少	中	多		
6/6放飼	○	○	1	107	98	7	1	1	8.4	2.5
6/13放飼	○	○	1	111	99	7	1	4	10.8	5.1
袋かけのみ	○	×	1	71	71	0	0	0	0.0	0.0
無処理	×	×	1	160	24	51	48	37	85.0	43.4

御浜町園地の「日南1号」で、5/23袋掛けを行い、6/6および6/13にそれぞれチャノキイロアザミウマ7頭を放飼し、7/23に調査した(R1)。

表2 チャノキイロアザミウマの月ごとの果実寄生数(頭/100果)とかすり状被害

	果実寄生数(頭/100果、月平均)			被害果率	被害度	備考
	6月	7月(～7/18)	6,7月平均			
A園	79.6	20.4	44.1	96.7	66.7	防除少ない 粘着トラップ調査 で6月捕殺数多い
B園	1.5	37.2	16.8	66.7	22.6	
C園	5.8	1.9	4.2	32.5	9.7	
D園	4.2	6.4	5.1	31.7	7.6	
E園	3.3	2.0	2.7	20.0	5.0	
F園	7.5	6.8	7.2	18.3	5.0	
G園	0.0	0.8	0.4	0.0	0.0	

いずれも極早生ウンシュウミカンでの調査。
果実寄生数は6/6から1週間ごとに調査し、6月は4回、7月は18日までの3回調査。
ただし、A園は6/20からの調査。被害は7/23に調査した。(R1)。

(紀南果樹 小林孝徳)

[その他]

研究課題名：みえブランドカンキツ品種等の産地強化支援技術の開発
 予算区分：県単
 研究期間：2015～2019年度
 研究担当者名：小林孝徳、駒田達哉、橋本真帆、須崎徳高、湊英也
 発表論文等：なし